

平成28年度病院医学教育研究助成成果報告書

報告年月日：平成29年 4月10日

研究・研修課題名	「第13回 睡眠医療・技術セミナー」への参加
研究・研修組織名（所属）	検査部
研究・研修責任者名（所属）	石飛文規（検査部）
共同研究・研修者名（所属）	

目的及び方法、成果の内容

①目的（800字程度）

睡眠障害にはさまざまな種類があり、大きく分けただけでも不眠症、睡眠関連呼吸障害によらない過眠、睡眠関連呼吸障害群、小児期に初めて出会う睡眠障害群、睡眠時随伴症、睡眠関連運動障害群、概日リズム睡眠障害群、さらに睡眠障害以外の疾病として分類される諸病態に伴う睡眠障害として精神疾患、神経疾患がある。

実際の睡眠検査で対象としている睡眠障害は、睡眠関連呼吸障害群の中の睡眠時無呼吸症候群と、睡眠関連運動障害群、睡眠関連呼吸障害によらない過眠症であるが、これらの中に他の疾患や睡眠障害が混在していることは十分考えられる事である。その判断は、知識と経験がなければ難しいため、今回「第13回 睡眠医療・技術セミナー」に参加することにより、睡眠障害の判別方法を学習する。

②方法（800字程度）

第13回 睡眠医療・技術セミナー（主催：日本睡眠学会）に参加する。

日時：平成28年8月28日（日） 9:00～16:45

場所：東京医科大学新宿（東大久保）キャンパス 第一看護学科棟1階

〒160-0022 東京都新宿区新宿6-1-1

③成果（データ等の図表を入れて2000字程度）

睡眠障害とPSG総論

睡眠障害は、ICSD（睡眠障害国際分類：The International Classification of Sleep Disorders）の最新版（2014年米国睡眠医学会刊行の第3版）において以下の様に分類されている。

1. 不眠障害
2. 睡眠関連呼吸障害
3. 中枢性過眠症
4. 概日リズム睡眠障害
5. 睡眠時随伴症
6. 睡眠関連運動障害
7. 孤発性の諸症状、異型症状、未解決の問題
8. その他の睡眠障害

睡眠障害診断検査として PSG (終夜睡眠ポリグラフ検査: polysomnography) が最も重要である。以下にその適応を記す。

1. 睡眠呼吸障害が疑われる場合は絶対的適応。
2. 過眠症の重症度の把握や鑑別には、PSG や MSLT (睡眠潜時反復検査) が重要。
3. NREM 期のパラソムニアでは、REM 睡眠行動障害の診断に重要。
4. 睡眠関連運動障害では、PLMD の診断に重要。

睡眠関連呼吸障害と PSG 総論

ICSD-3 の睡眠関連呼吸障害は、以前と比較し中枢性無呼吸症候群や睡眠関連低換気疾患の分類がより精緻となり、睡眠関連低酸素血症が独立の項目になったという特徴がある。これは呼吸生理学と睡眠医療の進歩を反映したものであり、睡眠関連呼吸障害の診断に PSG 所見が極めて重要であることを示している。

睡眠検査における ME の基礎

睡眠検査で使用される機器の殆どは、デジタル測定機器である。そのため、正確な記録を安定的に行うためには、機器の構造を理解して、機器の不具合の検出や記録中に発生するアーチファクトに対処していくことが大切である。

PSG 検査法総論

PSG の解析は長年、「Rechtschaffen&Kale(R&K)」を用いた解析法が普及していたが、現在ではセンサーの原理から装着位置など技術的使用から、睡眠脳波判定、呼吸判定、運動判定、心電図判定、レポートに記載すべき睡眠変数や項目など、統一基準を目標とした「AASM による睡眠および随伴イベントの判定マニュアル」を採用している施設が多くなっており、当院も AASM 法を採用している。解析に当たっては視察判定が一般的であり、その視察判定の精度を上げるためにも、セミナーや学会に参加し、多数の疾患の知識や発表にふれることが大切である。

まとめ

睡眠障害の診断には、より多くの症例について知見を広めることが重要あり、学会やセミナーに参加して、自施設だけでは経験出来ない症例にふれることが必要である。今回のセミナーで得た知識を日常検査に生かし、睡眠障害を見逃さず正確な結果報告つなげたい。